

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会 藤井医院 グループホーム みどり		
所在地	長崎県佐世保市中通町17-22		
自己評価作成日	令和3 年1月 25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念にもある、その人らしい生活が送れるよう、一人一人に合わせた対応に心がけて、ケアにあたっています。
また、コロナ禍という事もあり、中々外出が出来ない状況の中で、毎月行事や食事を開催し、楽しく刺激のある生活を送って頂ける様、職員一同取り組んでおり、健康面に関しては、母体の医療法人と協力して、健やかに過ごして頂けるよう支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは医療法人社団真友会藤井医院が母体であり、同建物内には介護付き有料老人ホーム・デイサービスセンター・居宅介護支援事業所を併設している。その他にも佐世保市内に複数の医療福祉サービス事業所を展開し、関係機関とも連携を図りながら多方面での支援を行っている。2ユニットである当ホームは佐世保市役所から程近く、佐世保港や市街地が一望できる環境にあり、職員は理念にある「その人らしい」を大切に入居者の支援に努めている。ホームには看護師が勤務しており、入居者の体調等の変化に対して医療的視点で支援ができることで職員や入居者とその家族も安心感を抱くことができています。また、母体法人の主治医が訪問診療以外でも見廻るほか、緊急時には医師が即応できる体制を整えている。現在はコロナ禍で以前のように外出支援等ができないが、中でもできることを試行錯誤しながら日々の支援に取り組んでいる。自粛や中止を余儀なくされたことについてはコロナ禍収束後にあらためて取り組む意向であり、今後も大いに期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

しずく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念を復唱している。また、フロアにも掲示したり、日々の介護記録表にも記載しており、常に意識した上で介護に努めている。	ホーム理念について朝礼時に職員間で唱和するとともに、全職員が理念の振り返りができるようにホーム事務所の壁に掲示し常に確認することで、理念に沿った支援に努めている。	職員は理念を把握しているが、更なる意識付けとして、例えば理念をもとに年間の個人目標やユニット毎の目標等を掲げ、目標達成状況や振り返りを行い次年度への目標設定に繋げるなど、理念を踏まえた更なる実践に繋がる今後の取り組みに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において情報を共有し、行事に参加している。(公民館祭りやグランドゴルフ大会など)また、小学生の職場体験の受け入れ等。 現在は、コロナ禍の為、中止している。	コロナ禍の状況の中で地域との交流はできていないが、町内会の回覧板を通して町内の情報を把握している。例年地域住民の参加により行っていたホーム主催の文化祭について、コロナ禍の状況を踏まえてホーム内で入居者と職員のみで実施したが、地域のグラウンドゴルフ大会には職員が参加し、コロナ禍の中でも可能な範囲で地域との繋がりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では研修の発表を行い、家族会では、意見交換を行い、認知症の方の理解、支援方法を課題にあげ取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態や行事報告を行い、意見や感想を頂いている。また、外部から講師を招き勉強会を行った。ご家族へは、議事録を送付している。 現在は、コロナの為、書面での対応を行なっている。	今年はコロナ禍で通常会議の実施ができないため、運営推進会議は書面での会議とした。会議ではホームや入居者の状況を報告し、地域住民や地域包括支援センター・他事業所職員、家族会メンバーから意見を求め、回答内容を日々の支援に反映できるように努めている。運営推進会議の議事録は家族に送付し、日頃の取り組みについて理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	清水包括支援センターの方には、運営推進会議に参加して頂いたり、新規の入居者の方の紹介や、情報交換等行っている。	ホームは市長寿社会課や地域包括支援センターとの繋がりを密にし、運営推進会議を通じてホームの現状報告に対する意見を得ている。介護保険の認定更新や区分変更など書類の手続きについての対応、及び新規入居の希望についての問い合わせや相談など協力関係の構築や連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を開催し、研修会への参加を行った。 職員の経験や考え等を共有しながら、日常業務に活かしたり、今一度見直すことができている。	法人内で待遇・身体拘束排除委員会や各部署に担当委員を設置している。3か月に1回法人内で開催する委員会にホームも参加するとともに、2ユニット合同で定期的に事例をもとにした勉強会を実施することで各フロアで身体拘束排除に向けて職員一人ひとりが考える機会とし、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	身体拘束についての知識を習得し、職員がより意識を深められるよう、身体拘束の3要件である「切迫性」「非代替性」「一時性」、身体拘束禁止の具体的な行為である11項目、スリーロック(フィジカルロック・スピーチロック・ドラッグロック)のマニュアルを作成し、日常的に確認できる場所に保管など今後の取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で、学ぶ機会を設けている。 意識の向上に努め、日常業務で気をつけるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名該当者あり。 運営推進会議にて成年後見制度について学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	全てにおいて必ず説明を行ない、不明な点、質問、意見がないか尋ねるようにしている。 また、改定時は文書にてお知らせを行い、面会時、口答でも説明し、承諾印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、家族会での意見交換や面会時の個別対応を行ない、反映出来るよう対応している。	コロナ禍により現在は家族との面会困難な状況であるが、職員が家族へ電話連絡した際に入居者の現状を報告し、家族の要望を聞き取っている。また、家族会を開催し、意見交換や要望を聞き取るなどコミュニケーションを大切にしており、聞き取った情報は運営に反映している。更に、毎月発行する便りに入居者の様子を収めた写真を貼付し、請求書と一緒に家族へ送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の、全体会やフロア会で意見交換を行ったり、個別での面談等を行い、運営に反映出来るよう対応している。	ホームでは全体会議及びフロア会議において職員が運営上の意見を出せる場を設けている。全体会議についてはコロナ禍のため以前のように定期的な開催はできていないが、フロア会議を通じて職員の意見や提案を日常の支援に反映することで、入居者の更なる安心した暮らしの継続に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、資格手当の整備、有休消化出来るよう努め、家庭の状況等も考慮し、勤務時間への配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加をすすめ、研修報告を行い、全スタッフが情報を共有出来るようにし、スキルアップに努めている。 また、得意分野をいかした機会の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加し、地域で定期的に合同研修を実施したり、交流会へ参加を行っている。 令和元年は、ブロック長を努める機会があり、より多くの交流をもつことができた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向を確認すると共に、職員間での情報共有も図り、心身の状態把握を行っている。 信頼関係の構築の為、コミュニケーションを多くとるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時は、積極的にコミュニケーションをとるようにしている。ご家族からの意見、要望が出た場合は、サービスに反映出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺っている。相談をしてより良いサービスが提供できるよう、場合によっては主治医、看護師、理学療法士に相談し意見を反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事はお願いし、家事手伝い等を通して、職員と一緒に日々の暮らしを共にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、共に過ごせるような空間作りを心がけたり、外出や病院受診等の支援をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたでも、気軽に訪問して頂けるよう雰囲気作りに努めている。馴染みの場所等は、ドライブ支援等でおとずれるようにしている。	コロナ禍により馴染みの場や人との関係継続の支援が困難な中で、ホームでは月1~2回個別で自宅付近までドライブに出掛けたり、入居者から食べたいメニューを聞き取って入居者が以前から好んで食べていた食事を職員と入居者が楽しみながら一緒に作って食べるなど、工夫を凝らした支援を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話や行動を見守り、必要時は職員が仲介し、コミュニケーションがとれるように努めている。食堂、各居室、他フロア等、場所にこだわらず様々な形で関わって頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、いつでも訪問して頂ける事や、相談支援を受け入れが出来る事も伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当のご利用者様とのコミュニケーションを密にとり、意向の把握に努め、困難な方に対しては、心身の状態をみながらケアに努めている。	自身の思いや意向を表出できない入居者について、職員は言葉掛けによる反応や表情で読み取り、変化等を観察し思いを把握するとともに、日頃の会話の中で汲み取った入居者の意向は記録に残している。また、入居者の担当職員が日々の記録等をもとにモニタリングを作成し、他の職員が目を通して必要に応じて付記できるよう事務室に貼り出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、主治医等の多方面から、入所前より情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを把握し、職員間で情報を共有し、出来る範囲で個別ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議で、意見交換を行う以外にも、随時、職員同士で話し合い、必要時は、作業療法士等の他職種から助言を頂き、介護計画に反映している。	入居者の担当職員が作成したモニタリングをもとにサービス担当者会議を通じて介護計画の内容について検討し、介護計画作成担当者が介護計画原案を立案している。その後、介護計画原案をもとに全職員が意見交換や話し合いを行った上で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態表、熱計表、ケース記録に毎日記録し、申し送りノートを活用しながら職員間の連携を図り、日々の介護や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状態の変化と共に、その時にあったサービス(個別ケア)が提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の行事等を通して関わりを持ち、外出支援等にも取り組んでいるが、コロナ禍において、現状は難しい状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な往診や、本人、ご家族が希望する医療機関を、いつでも受診できるように配慮している。	ホーム入居時、母体医療機関への主治医変更を依頼している。入居者は定期的な訪問診療を受けることができ、胸部レントゲンや心電図など個別の検査についても母体医療機関で受けている。また、精密検査を要する場合は主治医の紹介状で他医療機関を受診することができるため、入居者や家族、職員の医療面における安心感へと繋がっている。他科への受診については基本的に家族対応としているが、職員や看護師による同行支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の有料老人ホームに看護師が常勤しており、なおかつ10月よりGHに看護師1名も常勤となり、24時間体制でつながっている為、急変時にもいち早く対応できている。又、毎日の状態報告を行い、適切な処置を受けられるような体制を作っている。母体の医院との連携も密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関との情報交換を行うと共に、家族と医療機関の意思疎通が上手く図れるよう支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化及び看取りに関する説明を行い同意を頂いている。重度化の場合でも再度話し合いを行うと共に、主治医、看護師、各関係者と連携を持ちながら、支援に取り組んでいる。	ホームでは入居者や家族から看取りに関する意向を入居時に聞き取っており、主治医である母体医療機関の医師が看取りの時期を判断した後、主治医から家族へ説明しあらためて意向を聞き取っている。医療行為については医師の指示のもとで看護師による点滴投与やその他の医療的ケアを行っており、そうした環境の中で介護職員も自然と知識を習得することができ、看護師・主治医とのスムーズな連携へと繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、勉強会や看護師による実践を踏まえた指導をうけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な訓練を開催し、同一法人内で協力体制作りを行っており、台風等の災害が近づいている時の事前の備えや対策を職員間で協力しておこなっている。消防署に出向いての防火、防災の講習会へ参加。又、毎日の電気機器の安全確認を行っている。	ホーム併設の有料老人ホームやデイサービスセンターと合同で、昼夜想定での火災避難訓練や土砂災害避難訓練を実施しており、入居者は職員とともに訓練に参加している。日々の点検実施や有事の際の役割分担について明確にしており、備蓄も整備している。消防署で実施する災害についての講習会に参加するなど、職員は災害への備えに向けて積極的に取り組むことができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に一度勉強会を行い、日々の業務でも職員同士、声の掛け方、言い回し等に気をつけながら、対応している。 トイレ時もノックやドアを閉める事を徹底し、プライバシーの配慮に努めている。	職員は接遇マナー勉強会を通し、入居者へのプライバシー確保において言葉の語尾や言い回し、トーンに気をつけるなど、正しく共通認識を持つよう努めている。また、職員の不適切な言葉遣いについては互いに注意し合える関係づくりができています。日頃の様子を書いた個人情報メモは小さくちぎったり、個人情報記載書類に関してはシュレッダーを使用し破棄している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、意向や希望を確認し、困難な方に対しては、言葉掛けの工夫や表情をみて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間等、個々のペースに合わせ対応をし、1人1人の、その日の状態をみながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な美容サービスを受けて頂いたり、本人の好みの色や服を選んできて頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の嗜好を把握し、好みの物や味付けで、提供している。誕生日会や合同食事会では、メニューを一緒に考え、食事会を開催している。 味見や盛り付け、片付けを一緒に行っている。	献立はユニット間で1か月毎に交代で担当し、職員は持ち回りで1週間分の献立を作成している。入居者は調理の下ごしらえや茶碗洗いなど食事に関して関わりを持ち、役割を果たすことで自信や達成感に繋がっている。職員は入居者と一緒に楽しく食事ができるようコミュニケーションを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、食欲不振時は、嗜好品や栄養補助食品を取り入れ対応している。 水分に関しては、こまめに声掛けを行ったり、種類を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状態に応じた対応で、口腔内の清潔保持を行っている。月に1回の歯科往診があり、異常時は、すぐに対応出来るよう体制を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、トイレでの排泄を支援している。また、なるべく布パンツを使用するよう努めている。	職員は各入居者の排泄パターンを個別に把握し、排泄表のチェックをもとに本人のタイミングを見計らいながら声掛けや誘導を行うことで、トイレで排泄できるよう支援している。オムツ着用の入居者についても日中はリハビリパンツに交換するなど、排泄の自立に向けて努めている。また、便秘対策としてセンナ茶や牛乳を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト等の乳製品を取り入れ、排便コントロールを行い、早期対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、希望があれば、別日に対応したり、時間や順番は、状態により柔軟な対応に努めている。	ホームでは1人当たりにつき週2日の入浴実施や入浴する曜日を決めているが、入浴の拒否や体調不良によっては柔軟な対応ができるよう毎日入浴できる準備を整えている。入浴の順番や湯温の好みにはその都度対応し、個人のタオルの使用や入浴の順番を考慮するなど工夫しながら皮膚疾患の感染予防にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の状態に応じて、居室やソファ等、本人様が好まれている場所で、安眠や休息がとれるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細は、ファイルにしており、変更や追加処方、臨時薬に関しても、職員間で情報を共有し、支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課である家事手伝いや、散歩、畑作業等をケアプランにも導入し、支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は、外食や買物等によく出掛けていた。ご家族の協力もあり、自宅や散髪等にも行かれていた。現在は、車窓ドライブのみは時折行っている。	コロナ禍以前は季節毎の花見や外食支援等を行っていたが、現在、外出ができない状況にある。職員は中でもドライブに出掛けて車中から景色を眺めることなど、閉じこもりによる入居者のストレスを少しでも解消できる支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人所持の方はおられず、事務所にて預かり金を管理している。 必要時は、職員が介入し、購入して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方に関しては、好きな時間に使用して頂いている。 本人希望時は、電話を使用してご家族と連絡をとって頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、音量及び室温に配慮している。 行事の写真や季節を感じて頂けるように、壁面を製作したり、窓際に花を飾っている。	職員は季節毎の作品を入居者とともに制作し、共用空間であるフロアの壁に飾りつけることで入居者が季節を感じることができるよう工夫している。掃除は職員の勤務シフトによる担当制で行い、手すり等は次亜塩素酸を主成分としたエピクスイで拭き取っている。また、室温をチェックし、換気やエアコンの向きの調整等で入居者が心地良く過ごせる共用空間づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を設置し、廊下にも椅子を置き、好みの場所で、ゆっくりと過ごせるようにしている。又、座席の配置もその時々様子で、変更したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使用品を持ちこんで頂き、本人の趣味を取り入れた部屋作りを行っている。 居室内にマットを敷き、ゆっくりと寛げるような環境作りを行っている。	ホームでは入居者の以前からの馴染みの家具などを居室に持ち込むことで、これまでの生活を継続できるよう支援している。居室には家族と一緒に撮った写真を飾ったり、馴染みの物や好みの品が置かれ、その人らしさが窺える居心地の良い空間づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに名前を掲示したり、トイレ、洗面所等にも分かりやすく、絵や文字を大きく記載した物を掲示している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

つばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、職員全員で復唱を行っている。かつ、事務所の壁に皆が見えるように貼り、日々ケアの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回はコロナの状況があり、外部とのつながりが、できていない。予定をしていた文化祭は施設内で利用者、職員で行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、家族会にて、研修発表を行い、支援方法を課題にあげ、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や家族会にて、入居者様の状況や活動を報告し、意見等を取り組みに反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告を行ったり、介護保険の更新、変更といった書類の手続きについても丁寧な対応をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇身体拘束排除委員会にて話し合い、定期的に勉強会を行っている。各フロアで身体拘束排除に向けて一人一人が考え取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修や発表にて学んでいる。高い意識を持てるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が利用をされている。運営推進会議にて、学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や面会時等に説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、現状を説明しコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会、フロア会において自由に意見を出せる場を設けている。コロナの為、出来たり出来なかつたりしている(全体会)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格手当を整備してあり職員のスキルアップに繋がる仕組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フロア会等において交代にて事例発表を行っている。研修にも参加し報告を行っている。コロナの為、出来たり出来なかつたりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し交流を図っている。他施設の活動を通して情報の共有を行っている。(コロナの為中止)		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員と利用者様がコミュニケーションを大切にし、信頼関係作りに努め、心身共に安心した生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、状況を説明し要望等聞くように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様とよく話しをし意向を伺いながら、どんな支援が必要なのかを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力に応じ、お手伝いをして頂きながら、お互い「ありがとう」と言える関係を築けるよう対応してる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にお話しをして、特に行事等声掛けをし、参加をお願いしたり信頼関係作りに努めている。(行事はコロナの為声掛け行えていない)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	同施設内に入所されている方と時々会って頂く機会を設けている。月に1~2度合同レクもやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や行動を見守り、必要に応じて間に入ったり座席替えをしたり、良好な関係作りが出来るように配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談支援が出来るよう関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様の担当職員を中心にご本人様の意向を聞きながら対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本台帳を基に、ご本人様や家族、事業所からの情報などを得て対応を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態により対応している。趣味や生活歴等の把握に努め、また職員の意見、情報交換などにおいて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングと状態変化に応じ、その都度話し合いながら介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録を行っている。申し送りノートを活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状態の変化を常に把握し、利用者様のニーズを考え、職員と情報交換し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の職場体験や公民館祭りへの参加。 現在はコロナの為、中止としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診があり、定期的に医院にて、健診を受けて頂いている。 毎日の朝・夕のFAXにて状態報告を行っている。 また、主治医の判断、指示にて他科受診も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気付きでも、看護職員に報告を行い、指示を仰ぎ、適切な対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先との連絡を取り合い、早期退院が出来るよう情報交換を行い、受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化及び終末期についての意向を伺っている。終末期になると、主治医より、定期的な状態報告をして頂き、ご家族の意向を伺いながら、介護、看護、主治医と連携をとりながら、対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会、全体会で勉強会は行ってはいるが、実践研修への取り組みが少ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防火・防災マニュアル作成している。 年2～3回訓練も行っている。また、毎日のコンセントチェックも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した上で、言葉使いには十分注意し、プライバシーの確保にも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切に、表情や行動を見落とさないよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで、1日1日を過ごして頂けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な美容サービスを受けて頂き、起床時などの、身だしなみも綺麗に整えるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、茶碗洗い等手伝って頂いている。時間が合えば、職員も一緒に食事をとり談話する時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は記録をとり、十分な確保に努めている。水分摂取量が、少ない方については、嗜好品を提供し、工夫しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、口腔体操の実施。 定期的な歯科往診あり。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、排泄パターンを把握し自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に応じ、牛乳やセンナ茶を提供している。 体操や散歩も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態に合わせ、時間や曜日に対応し、無理のないように、入浴にお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態にあわせ、居室やソファにて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の病歴を把握し、どのような薬であるか、理解している。 薬の変更等も申し送りに記入し、職員全員で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技(編み物、貼り絵、塗り絵等)をみつけ、毎日の生活の中で楽しみがあるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、ドライブ、買物等へでかけている。 現在は、コロナで中々外出ができていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しい為、ご家族と協力して管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の負担も考慮しながら、電話、手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある、飾りつけを行ったり、過ごしやすい室温に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個性、性格に合わせ配席工夫を行っている。また、ソファ等で、休息取れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と一緒に撮った写真や行事の写真を居室入り口や部屋に貼っている。家具なども持ち込んでいただき、居心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に、名前プレートや写真を貼っている。トイレ等には大きな文字で分かりやすく表記している。		